

口腔回復系診療科

口腔機能回復科・高齢者歯科治療部

外来 外来診療棟C 5F

連絡先 022-717-8397(外来)



科長
服部 佳功 教授

主な対象疾患

- 欠損歯
- 無歯顎(高度顎堤吸収)
- (高齢者の)口腔機能低下症
- 顎関節症

診療内容

口腔機能回復科と高齢者歯科治療部は一体として外来診療を行い、高齢者の口腔機能の回復や維持管理、顎関節症など比較的軽度の口腔顔面痛の保存治療・管理を行っています。

加齢に伴って顎口腔系に生じる、歯数の減少、唾液分泌低下、筋力低下などの変化は、摂食機能の低下を介して全身的な低栄養の危険性を増大させます。また、高齢者で多く認められる四肢の麻痺や関節疾患による手指機能の低下、視力低下、認知機能低下などは、口腔衛生状態を悪化させ、顎口腔の機能低下に拍車をかけます。近年、要介護の前段階として知られるようになった『フレイル』は、低栄養によりその病態が悪化するといわれており、加齢によって顎口腔機能が低下をきたしやすい高齢期においては、栄養の入口である口腔の機能を維持・回復することが、介護予防を推進する上でも重要とされています。当科では、義歯治療を中心とした歯科補綴学に基づく摂食機能回復に注力するとともに、口腔乾燥症や口腔衛生不良など、高齢者に多発する病態に対する指導・管理を行っています。

顎関節症治療については全年齢を対象としており、主に歯の接触癖やブラキシズム等に対する管理指導や、スプリント等を使用した保存的治療を行っています。歯科補綴学的見地から必要性が認められた場合は、咬合挙上や下顎位修正などの咬合治療を行うことがあります。また、難治性の症例については、外科処置や高度な薬物療法について、歯科顎口腔外科と連携した治療を行う場合もあります。

診療体制

口腔機能回復科・高齢者歯科治療部ともに、共通の歯科医師15名(2018年1月現在)の体制で診療を行っています。新患受付は月・水・金曜日の午前11時まで、担当医決定後(再来)は月～金曜日の午前・午後ともに予約診療制となっております。

得意分野

当科は学生教育において全部床義歯学を担当していることから、義歯(特に総義歯)による高齢者の口腔機能回復について力を入れています。高度顎堤吸収や下顎位の不安定化などによって困難化した症例についても、十分に時間をかけて診査や調整を行うことで、可及的に機能回復を図るよう努めています。



図1.咬合力測定装置や咀嚼能力検査システムを用いて高齢者の口腔機能低下を早期発見します。



図2.義歯の難症例については顎運動測定装置などを使用して十分に診査を行います。

ご紹介いただく際の留意事項

- 新患受付は、月・水・金曜日の午前11時までとなっております。